

常楽寺に新しい光を

本年の、除夜の鐘の打ち鳴らしから、新春初護摩法要、そして、新年を迎えた朝の法要といふことのほか静かで穏やかな中で、進めることが出来ました。

新しく迎えた、この一年が、このような穏やかな年であつて欲しいと、願わずにはおられません。

常楽寺にとつて、本年の二月には、お不動様の修復工事も完成し、新築作業を進めている不動堂も、立派に完成します。

常楽寺の歴史については、不明な部分が多々まだたくさんありますが、かつてこの寺に祭られていた、この本尊の十一面観世音菩薩さまは、今から千年以上も前にさかのぼる、平安時代のものであることが明らかになって来ました。

また、江戸時代になって新しく作り直した、この本尊十一面観世音菩薩坐像は、当時日本一の仏師であつた、京都の大仏師鈴木民部の手で作られた

仏像である事もわかりました。

このことは、昭和五十年に出版された、東京国立文化財研究所情報資料部長、仏教美術研究所長の、久野健(たけし)先生の著書『仏像事典』にも記載されています。

常楽寺が建立された時代には、周囲に寺が無く、広い地域の方々が、壇徒として集まっていたと考えられますが、やがて反町の照明寺や、木崎の大通寺が建立され、寺も火災にあつて、常楽寺は次第に壇徒を失い、疲弊して行つたと考えられます。

明治二十七年、この常楽寺と、杉の内の蓮蔵寺、烏ヶ谷戸の円通寺が合併して、今の場所に寺を移しましたが、寺の歴史でもっとも古い常楽寺の名を残しました。しかし、合併以前から旧常楽寺の修復にも、三つの地区が協力していた事が、不動堂の解体で明らかになりました。

常楽寺も「おらがいの市バス」の停留所

この度、太田市が交通手段を持たない、六十五歳以上の方や、高校生を対象として実施している『おらがいの市バス』のバス停留所として、常楽寺が指定されました。

この『おらがいの市バス』は、利用を希望される方が、あらかじめ太田市(太田市交通政策課一市役所六階)に利用登録をして、登録証をいただき、利用日前日までご予約をするので、バスで家庭まで迎えに来てくれる、指定された停留所まで運行してくれる。また、帰りにも約束時間に迎えに来てくれる制度です。利用時間は午前七時から午後四時までです。

今回、常楽寺も停留所として指定して頂きましたので、お花見にお出掛けいただくにも、墓参りも法要にご参加いただくにも利用いただけます。

常楽寺
たより

26.1.4.

節分会 二月三日(月)午後三時より

本年の節分会は二月三日(月)午後三時より、常楽寺本堂で行います。大勢ご参加下さい。

節分の翌日が「立春」と言つて、暦の上では春となります。春を迎える喜びを、豆まきの行事をして、家族みんなで喜び合ひましょう。

節分守護札 一、〇〇〇円
節分厄除護摩札升付 五、〇〇〇円
升無し 三、〇〇〇円

男子厄年 四歳 二十五歳 四十二歳 六十一歳
女子厄年 四歳 十九歳 三十三歳 三十三歳 六十一歳

※ご希望の方は役員さんか常楽寺へご連絡を、